

胃バリウム（上部消化管）検査の流れ

検査前日から来院まで

① 前日の夕食



午後8時までにお取りください。それ以降は絶食となります。
水、お茶は就寝前まで飲んでも構いません。

② 当日の朝



午前7時まででしたら、コップ1杯程度の水（約200ml）を飲んでも構いません。
それ以降は検査終了まで絶飲食となります。

検査手順

① 注射を打つ



検査開始直前に、胃の動きを抑える薬を腕に筋肉注射します。

② 発泡剤を飲む



バリウムを飲む直前に、胃を膨らませる発泡剤を飲みます。
ゲップが出そうになりますが、胃粘膜を見やすくするためにできるだけ我慢してください。

③ バリウムを飲む



まずは立った状態でバリウム（約150ml）を飲みながら、検査を進めていきます。

④ 検査台で回転する



検査台の上でご自身で回転していただけます。すべて、診療放射線技師が誘導します。
お腹を押して撮影することがありますので、苦痛を感じたら教えてください。

検査終了後

検査は15分～20分程度で終わります。注射後に目のかすみなどの症状が現れることがありますが、1時間前後で消失します。ご帰宅後、必ず下剤をお飲みください。

胃バリウム（上部消化管）検査とは？

バリウムを飲む胃のレントゲン検査です。食道から胃、十二指腸までの上部消化管をX線写真で映し出すことで、疾患の有無を調べることができます。

Q この検査の目的は？

胃がんを早期に発見することです。また、胃潰瘍・胃ポリープ・胃炎なども発見されます。

Q なぜ絶食が必要？

胃の中を見るためです。胃の中に食べ物や飲み物があると、検査の精度は悪くなります。

Q なぜ注射が必要？

胃の動きを抑えるためです。

また胃の働きを抑え、胃腸の緊張を和らげる作用により、より精度の高い画像を得ることができます。

※ 薬剤名「ブチルスコポラミン」

Q なぜ発泡剤を飲む？

発泡剤により胃が膨らむことで、胃の粘膜が見やすくなります。

ゲップは我慢する必要があります。

ゲップが出たときや空気が腸に流れたときなどは、もう一度飲んでいただきます。

Q なぜバリウムを飲む？

胃の粘膜を見るためです。胃壁に薄くバリウムが付着することで胃壁の濃淡画像を作ることができます。

バリウムの量が少ないと見える範囲も狭くなり、検査の精度は悪くなります。

Q なぜ回転が必要？

バリウムを胃の粘膜全体に付着させ、色々な方向から観察するためです。

バリウムは時間と共に粘膜から剥がれ落ちてしまうため、何度も体の向きを変えることを繰り返します。

指示が分かりづらいことがあると思いますが、あわてずに落ち着いて動いてください。

胃のバリウム検査には多少の苦痛が伴います。皆様のご協力により精度の高い検査をお受けいただくことが出来ますので、ご理解、ご協力をお願いします。

検査終了後の注意

下剤は必ずお飲みください。食事は通常通り食べていただいて結構です。バリウムは体内に吸収されず、肛門から体外へ排泄されます。バリウムが排泄されないまま長時間腸内に残っていると、硬くなり排泄されにくくなる場合があります。下剤を飲んで数日過ぎても排便しない場合や、お腹が張ったり腹痛がある場合は、早めに医療機関を受診してください。